



平成 17 年 10 月 5 日

各 位

会 社 名 株式会社 ブロッコリー
代表者名 代表取締役会長 木谷 高明
(JASDAQ コード 2 7 0 6)
問合せ先 取締役財務経理部長 興津 吉繁
(TEL . 03 5946 2824)

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

この度、当社において、特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成 17 年 4 月 19 日付当社「平成 17 年 2 月期決算短信（連結）」及び同日付当社「平成 17 年 2 月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

また、多額の特別損失の計上により、平成 18 年 2 月期中間期末において、誠に遺憾ながら、当グループは債務超過の状態に陥る見込であることもあわせてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

(1) たな卸資産の評価方法の見直しによるたな卸資産評価減の計上等

昨今、消費者の嗜好の変化等によって製商品のライフサイクルが急速に短縮化する現象が見られており、当社において従来発売から 2 年経過のたな卸資産について評価減の対象としておりましたが、今般、1 年経過したのも対象に加え、厳正に評価することにしました。この見直しによって、当連結中間会計期間において 348 百万円の評価損が発生しました。加えて、一部の商品の廃棄をすすめた結果廃棄損 41 百万円を特別損失といたしました。

(2) 「固定資産の減損に係る会計基準」の早期適用による減損損失の計上

本日開催の取締役会において今後の経営の効率化と不採算店舗の利益改善をはかるため、平成 18 年 2 月期(平成 17 年 3 月 1 日~平成 18 年 2 月 28 日)中間決算より「固定資産の減損に係る会計基準」の早期適用をすることを決定し、これによる特別損失 56 百万円を計上いたします。減損の対象となった資産は不採算店舗の固定資産及びリース資産であります。

(3) その他の特別損失

この他に固定資産除却損 16 百万円、開発中止損 11 百万円及び投資有価証券評価損 12 百万円を特別損失として計上いたします。

この結果、当中間期における特別損失の合計は 484 百万円（連結・個別ともに同額）になる見込であります。

2. 平成 18 年 2 月期 連結業績予想の修正

(1) 中間期(平成 17 年 3 月 1 日~平成 17 年 8 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	3,956	262	287
今回修正(B)	3,934	427	918
増減額(B - A)	22	165	631
増減率	0.6%	63.0%	219.9%

(2) 通期(平成 17 年 3 月 1 日~平成 18 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	8,583	50	20
今回修正(B)	8,477	411	903
増減額(B - A)	106	461	923
増減率	1.2%	-	-

(3) ご参考：前期の実績(平成 16 年 3 月 1 日~平成 17 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(3/1~8/31)	4,101	265	291
通期(3/1~2/29)	8,533	392	478

3. 平成 18 年 2 月期 単独業績予想の修正

(1) 中間期(平成 17 年 3 月 1 日~平成 17 年 8 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	3,850	265	290
今回修正(B)	3,846	416	908
増減額(B - A)	4	151	618
増減率	0.1%	57.0%	213.1%

(2) 通期(平成 17 年 3 月 1 日~平成 18 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	8,372	46	18
今回修正(B)	8,258	416	908
増減額(B - A)	114	462	926
増減率	1.4%	-	-

(3) ご参考：前期の実績(平成 16 年 3 月 1 日~平成 17 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(3/1~8/31)	4,007	265	285
通期(3/1~2/28)	8,350	425	510

4. 中間期業績予想修正の理由

(1) 売上高

主要部門である国内店舗売上高は前年同期比 101.4%、国内本社売上高は前年同期比 82.1% であり、連結売上高は前年同期比 95.9%にとどまりましたが、売上高金額は当初計画に対し 99.4%とほぼ計画通りでありました。

(2) 経常利益

売上高金額はほぼ計画通りでありましたが、売上構成の変化、特にトレーディングカードゲーム等粗利益率の高い自社製品の割合が減少し、書籍・CD等粗利益率の比較的低い他社商品の割合が高まった結果、売上総利益が計画を大幅に下回りました。加えて、たな卸資産の評価減及び返品引当金の増加によって売上総利益が低迷いたしました。販売費・一般管理費が前年同期比 91.3%と減少したものの売上総利益の不足をカバーできず、連結経常損失が当初計画の 262 百万円から 427 百万円に膨らむ見込みであります。

(3) 特別損失の計上・中間純利益

経常損失の増加と前記の特別損失 484 百万円の計上によって、連結中間純損失が 918 百万円となる見込であります。

5. 通期業績予想修正の理由

当期は、当初より上期赤字・下期黒字の計画であります。上期の赤字の拡大という実績を踏まえ、下期の見通しについても当初の見通しよりも慎重に見ざるをえない状況にあります。すなわち、下期投入予定の新型カードゲームについては先行販売のお試し版が完売の勢いであり、またオンラインゲーム「ECO」は現段階で無料会員数が約 25 万人に達しているなど、今後の業績向上への好材料はありますが、当期への利益貢献はまだ限定的と見ざるを得ません。

(1) 売上高

主要部門の国内店舗売上高は前期比 102.5%と増加するものの、国内本社売上高は上期の出遅れが響き前期比 90.3%にとどまる見込につき、全体で前期比 99.3%の 8,477 百万円と見積もっております。なお、連結子会社においては大きな変動は見込んでおりません。

(2) 経常利益・当期純利益

下期の経常利益 16 百万円を見込み、通期経常利益は 411 百万円、当期純利益 901 百万円の見込みであります。

なお、上記説明は連結ベースで記載しておりますが、連結ベースと単体ベースの内容はほぼ同一でありますので、単体ベースの説明は省略しております。

6. 債務超過解消について

当社グループでは当中間期末に約 300 百万円の債務超過になる見込であります。上記のように新規事業の展開等による業績回復による債務超過解消が当期中には間に合わない状況にありますが、他方、早期にこの状態を打開するための方策について、種々の選択肢を探っているところであります。

つきましては、新たな方策が固まり次第発表申し上げる所存でありますので、事情ご理解賜りたく存じます。

以 上